

後輩NTR（こごうはいネトラレ）

2013/6/5

Var. 2. 01

サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

「後輩NTR」・登場人物表

先輩と後輩は、一緒の部活の部員。

※何部なのかはストーリーでは触れません。視聴者が好きなようにイメージ。

先輩と後輩は相思相愛。

ただ、まだちゃんとした告白をしていないため

お互いちゃんとした恋人になりたいとも思っている。

だが、周りの部員たちから見たら「おまえらもうつきあってるだろ？」ってくらいあからさまにいちやいちやしている。

いちやいちやしてる割には、キスもしたことがないばかりか、手をつなぐことさえも恥ずかしがっている。

先輩は後輩に対してあまり積極的にアピールしていない。

後輩の方が積極的に先輩に話しかけ、一緒にいるよう努力をしている。

夏休みに入り、先輩の顔色が悪くなっていく様子を後輩が心配して

問い詰めてみたら、両親が海外に行き、料理を作り人がおらず

毎日カップラーメンばかり食べているといったため

「それなら私が毎晩ご飯作りに行つてあげる。あとお弁当もつくつてあげる」ということになり、ママに料理の特訓を受けつつ

先輩の家を訪問する日々が続く。

ママの教え方がいいのか、意外と料理はそれなりにできている。

「せーんばいっ・・・せーんばいっ」

「・・・せーんばいっ！ ちよつとなにぼーとしてるの？」

「ほんと、先輩ってば、よくぼーつとしてるんだから」

「・・・」

「それにしても、夏休み始まった頃、部活で先輩見るたびに顔色悪くなってるなーって思ってたら、ご両親が研究で海外にずっと行っちゃって、

家で先輩ずつーとひとりぼっちで、それで、誰もご飯つくってくれる人がいないから

1週間も毎日カップラーメン食べてたんだって？」

「ほんとに、それ聞いたとき、あきれたんだから・・・」

「だから、わたしがこうやって毎晩お料理作りにきてるんだよ？」

「もうちよつとわたしに感謝したらどうかしら？」

「・・・あー、ぜんぜん感謝の気持ち足りないなー」

「いいのかなー？ いいのかなー？ そんなんだと、もうつくってあげないぞー？」

「昨日もあんなに美味しいおしいおしいって言ってたわたしのお料理、もう食べられなくなっちゃうんだぞ？」

「ふふ・・・それでもいいのかな？」 (いじわるっぽく)

「・・・」

「そうでしょう、そうでしょう。わたしのお料理食べられなくなるの嫌でしょー」

「むふー♪ 先輩のためにママからお料理たくさん教えてもらったんだから・・・」

(ちよつと小声で)

「・・・え？ ううん、なんでもない。あは」

「うん、今日はカボチャのシチューとピザトーストだからね！ 楽しみにしてなさい」

「カボチャ好きでしょ？ 先輩！」

「え？ 別に普通だって・・・？」

「・・・」

「しばくぞ？ 先輩」

「もー、そこは『ちよーかぼちやすきー』とか、『カボチャが無ければ生きていけないっ！』ってくらい言わないと！ あは」

「え？ 言い過ぎだって・・・いいのよ、これくらいがちょうどいいの」

「・・・」

「とかいってるうちに、もう先輩の家だね」

「なんかあつという間についちゃったね」
「・・・」(がちやがちや・・・がちや・・・がちや・・・ばたん)
(玄関の鍵を開けて扉を開けて、扉を閉める音)
「・・・」(どさっ)(買い物袋をおろす音)
「ふふ、おじゃまします」
「・・・」
「さーで、ぢゃあ早速始めますかー・・・」
(がさがさ)(ビニール袋をあさる音)
「カボチャと・・・ピーマンと・・・タマネギ、チーズに・・・」
「・・・」
「ああああああつ!!」
「・・・」
「ト、トマトピューレがない!」
「・・・あちゃー・・・買い忘れちゃった・・・」
「・・・」
「え? トマトケチャップでいいじゃないかって?」
「だめよ! それは絶対駄目!」
「トマトピューレを使わないピザトーストなんて、お肉の入ってないカレー
みたいなものよ!」
「・・・」
「え? 先輩んちのカレー、お肉入ってないって・・・?」
「・・・」
「んと・・・トマトピューレを使わないピザトーストなんて、
にんじんの入ってない肉じゃがみたいなものよ!」
「・・・」
「え? にんじん嫌いだって?」
「・・・」
「しばくぞ? 先輩」
「・・・」
「うん。よし! わたし買ってくる」
「・・・」
「あ、近くのスーパーですぐ買って戻るから、大丈夫」
「ひとりでもいいよ! ちょっと待っててね先輩」
「・・・」(がちや・・・ばたん)(玄関のドアを開けて出ていく音)

(がちや……ばたん) (玄関のドアを開けて、閉める音)

「ただいまー」

「……」

「せんばーい！」

「……」

「あれ？ 台所にいない……トイレかな？」

「……」

「ま、いっか……よーし、じゃあ、作り始めちやおつかな……」

「……」 (がたっ!) (何か物音がする)

「ぎや……なに? ……先輩?」

「……」

「もー、まさかわたしを驚かそうとしてるんじゃないでしょうね……」

「……」

「せんばーい、せんばーい、どこですかー」

「……先輩の部屋かな?」

「……」 (とんとん) (ドアをノックする音)

「せんばーい……いるのー?」 (とんとん) (ドアをノックする音)

「あけるよー?」 (がちや) (ドアを開ける音)

「せんば……きやあああああ!」 (先輩が縛られている光景を見て驚く)

「せ、せんばいつ! なんで、縛られてるんですかっ!」

「ちよっ……ちよつと……え……あ……えと……」 (おろおろする)

「あっ……とりあえず助けないと……」

「せんば……んんっ!」 (どさっ!) (押さえつけられてベッドに倒される)

「あっ! ……ん……な……」

「だ……だれ……ど、どろぼう?!」

「きやあ!」 (泥棒(?)に乱暴に扱われる)

「ちよっ……やだ! せんばい! せんばいつ! ちよつと……やっ……」

(びりっ) (服を強引に破られる)

「きやあああああ! やめてっ!」

(びりっ)

「きやあああああああああ! せんばいつ! せんばいつ! たすけてっ!」

(びりっ)

「きゃあ！ やだっ！ せんばい！ いやっ！」
(びりっ)
「ひっ！ やっ・・・」
(びりっ)
「あっ！」
(びりっびりっびりっびりっ)
「先輩助けてっ！」(上半身があらわになる)
「あ・・・や・・・やだ・・・やだ・・・やだ・・・やだっ！ やめて！」
(ちゅば) (おっぱいを吸う音)
「ひっ！」
(ちゅばちゅばじゅばじゅば) (以下おっぱいを吸う効果音を続ける)
(女性に抵抗されている中で無理矢理おっぱいを吸っているので乱れた感じで)
「いやあああああああ！ やだ！ やめて！ おっぱいすわないでっ！」
「やあああああああああ！ やだあああああああああ！」
「助けてっ！ 先輩助けてっ！ いやあああああああああ！」
「やあああああ！」(吸うの終了)
「やあああああああああ、あっあっ・・・やだっ！ やだっ！」
「お願いっ！ はなして！ 先輩っ！ 先輩っ！ たすけてっ！」
「ひっ！ (股間に手を入れられる)
(くちゅ・・・)
「やっ！」(くちゅくちゅ)
「いっっ！」(くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ)
(以下、抵抗されながらくちゅくちゅをつづける)
「いやあああああああああ！ やだやだやだやだ！」
「そこはやだ！ やめてっ！やめてっ！」
「いやあああああああああ！ やだあああああああ！」
「先輩っ！ 先輩っ！ たすけてっ！ やだっ！ やだっ！ やだったら！」
「助けて先輩っ！ ああああああああああ！ いやっ！ いやっ！」
「やめてっ！ お願いだから！ やめてっ！」
「ひいっ！ んんっ！ やだっ！ やだっ！ くっ！ んぐっ！」
「あっ！ んあっ！ いっ！ んん・・・んんん・・・」
「やあああああああ！ いやあああああああああ！」
「やあああああああああ！ (くちゅくちゅ終了)
「あ・・・あ・・・」(絶望する)

「ひっく・・・ひっく・・・助けて・・・助けて・・・」
「あ・・・や・・・やだ・・・」(挿入されようとしている)
「それだけは・・・それだけはやだ・・・お願いだから・・・」
「あっ！ やだっ！ だめっ！ いやっ！ いやあああああああああ！」
「いけないでっ！ いれないでっ！」(激しく抵抗する)
「助けて！ 助けて先輩！ やっ！ やっ！ やめてっ！」
(じゅぼ・・・)(挿入音)
「やっ！」
(じゅぼ・・・じゅぼ・・・)
「やだやだやだやだやだ！」
(じゅぼじゅぼじゅぼじゅぼじゅぼじゅぼ(以下ループ)
「いやああああああああああ！ やめてっ！ おねがい！ やめてっ！」
「やああああああああああああ！ なんでっ！ なんでっ！」
「初めてなのにつ！ 先輩につて決めてたのにつ！」
「やだ！ んぐっ！ ん！ やっ！ いや！ こんなはやだっ！」
「たすけて！ おねがいたすけてっ！ えっ！」
「先輩っ！ 先輩っ！ 助けてっ！ 先輩っ！」
「や・・・あ・・・そんな・・・」
「やだ！ ださないでっ！ お願いだからっ！ 中は駄目っ！」
「お願いですっ！ 中だけは許してくださいっ！」
「あっ・・・あっ・・・やだっ！」
「やだやだやだやだやだやだやだやだやだ！」
「やあああああああああああああああああ」
(じゅぼじゅぼ終了)
(どくっどくっ・・・どくっ・・・)
「あ・・・あ・・・」
「・・・」
「ひっく・・・ひっく・・・みないで」
「ひっく・・・ひっく・・・先輩見ないで・・・」
「ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」
「ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」
(フェードアウト)

(脅迫パート)

(フェードイン)

「ひっく．．．ひっく．．．ひっく．．．ひっく．．．ひっく．．．」

「ひっく．．．ひっく．．．ひっく．．．ひっく．．．ひっく．．．」

「え？ ひっく．．．ひっく．．．」

「なに？ ひっく．．．ひっく．．．」

「先輩の方へ近寄って．．．」

「え．．．ナイフ．．．」

「．．．」

「っ！ せ．．．先輩を殺さないでっ！ お．．．お願いだからっ！」

「わたし何でもしますから！ 殺さないでっ！」

「．．．」

「お願いです．．．ひっく．．．先輩を殺さないでください．．．ひっく．．．」

「おねがいです．．．ひっく．．．ひっく．．．」

「．．．え？」

「っ！」(息をのむ．．．)

「そんな．．．お．．．オナニーしろ？」

「それは．．．」

「．．．」

「あっ！ わかりました！ わかりましたから．．．」

「先輩は．．．先輩は助けてください．．．」(弱々しく)

「．．．」

「え？ ．．．ここに立てって？」

「そんな．．．先輩の目の前．．．」

「あっ．．．はい．．．」

「．．．」

「立ちました．．．」

「．．．」

「見えるように足を広げろ？」

「．．．」

「先輩．．．目を閉じて．．．お願い．．．ひっく．．．ひっく．．．」

「はい．．．広げました．．．ひっく．．．ひっく．．．」

「……」
「え？ はじめるんですか……ひっく……ひっく……ひっく……」
「……」
「はい……」(くちゅ)(ゆっくりオナニーをはじめる)
「……」(くちゅ……)
「……」(くちゅ……)
「え……？ もっとはげしくやれ……うって？」
「……」(くちゅくちゅ)(少し早くする～)
「んっ……」(くちゅくちゅ)
「んっ……」
「あ……も……もっとはげしくうって？」
「……」(くちゅくちゅくちゅくちゅ)
「んん」(くちゅくちゅくちゅくちゅ)
「んんっ」(くちゅくちゅくちゅくちゅ)(以下くちゅくちゅがうづく)
「あ……ひっく……ひっく……ひっく……」
「先輩……目を閉じてますよね……ひっく……ひっく……ひっく……」
「わたし怖くて……ひっく……ひっく……ひっく……」
「怖くて、先輩のお顔みれません……ひっく……ひっく……ひっく……」
「何もみないでください……ひっく……ひっく……ひっく……」
「何も聞かないでください……ひっく……ひっく……ひっく……」
「目の前には誰もいません……ひっく……ひっく……ひっく……」
「ひっく……ひっく……ひっく……ひっく……」
「え……？ も……もっど早くしろって？」
「……」
「これ以上は……あっ！ すみません！ やります！ やりますからっ！」
「だから先輩には……先輩だけは……」
「くちゅくちゅくちゅくちゅ！」(くちゅくちゅスピードを激しくする)
「んっ！」
「ひっ……」(以下、声が漏れそうだが、先輩に聞かれないので必死に耐える)
「あ……んんんん……い……ああ……んっ」
「んあ……ああ……ああああ……」
「ああああああ……」(そろそろ我慢できなくなる)
「あ……あの……おねがいです……もう……もう……」
「もうやめさせてください……」

「あの・・・んぐ・・・も・・・漏れそうなんです・・・」

「・・・」

「き・・・聞こえないって・・・？ もっと大きな声でいって？」

「あの・・・も、もれそうなんです・・・」 (ちよっと大きな声で)

「お、おしっこ漏れそうなんです・・・」 (もうちよっと大きな声で)

「・・・あの・・・あの・・・ひっく・・・ひっく」

「・・・お・・・」

「おしっこ漏れそうなんです！」 (大きな声で)

「・・・」

「だ・・・だから・・・だから・・・ひっく・・・ひっく」

「えっ！」

「え・・・も・・・漏らしたらやめていいって?！」

「・・・そ・・・そんな・・・そんな・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「せ・・・先輩の・・・先輩のすぐ前なんですよ・・・」

「んっ・・・お・・・お願いですから・・・」

「・・・あ・・・ああ・・・あああああああ」

「やあああああああああ・・・ああっ・・・ああっ」

「んっ・・・お願い・・・お願いですから・・・もう・・・」

「んっ・・・あ・・・んあ・・・あああああ・・・」

「やあああああああああああ」

(じよぼぼぼぼぼぼ・・・) (おしっこ音)

(くちゅ・・・くちゅ・・・) (くちゅくちゅ音弱くなって終了)

(おしっこ音少しずつ小さくなって終了)

「あ・・・あ・・・あ・・・」

「先輩・・・先輩・・・」

「・・・」

「ひっく・・・ひっく・・・ごめんなさい・・・」

「ひっく・・・ひっく・・・先輩・・・」

「ひっく・・・ひっく・・・ごめんなさい・・・」

「ひっく・・・ひっく・・・ごめんなさい・・・」

「ひっく・・・ごめんなさい・・・ごめんなさい・・・」

「ごめんなさい・・・ごめんなさい・・・ごめんなさい・・・」

「ごめんなさい・・・ごめんなさい・・・」

(フェードアウト)

4. 何度も何度も

(フェードイン)

「ひっく……ひっく……ひっく……」

「ひっく……ひっく……ひっく……」

「え……よつんばになれ……?」

「……」

「は、ひっ!」(「はい」と言おうとしていきなり後背位で突かれる)

(じゅぼじゅぼ) (ばんばん) (普通に後背位) (以下効果音を続ける)

「うぐ……あっ……ん……ん……」(絶望してあまり強く抵抗しない)

(ピストン運動の断続的な喘ぎ)

「やっ……いやっ……んっ……んっ……あっ……」

「あっ……あっ……ひっくっ……ひっくっ……」

「先輩……見ないでっ……ひっくっ……ひっくっ……」

「目をっ……目をっ……閉じてっ……あっ……あっ……」

「お願いっ……んっ……んぐっ……んっ……やっ……」

「あっ!」(大きな声で)

(どくっどくっ……どくっ……)

(じゅぼじゅぼばんばん終了)

「ひっく……ひっく……」

「……え……上にのれって……? ひっく……ひっく……」

「……はい……こ……こ……うですか……」(騎乗位の形になる)

(じゅぼ)

「んっ……」

「……」

「じょ……上下に動け?」

「……」(じゅっぼ……)

「んぐ……」

「……」(じゅっぼ……)

「うう……」

「……」(じゅっぼ……)

「う……」

「え……早く動け……?」

「……」(じゅぼ……)

「う」(じゅぼ・・・)

「あ・・・」「(じゅっぼじゅっぼじゅっぼじゅっぼ) (ループ)

「うう・・・んく・・・あ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「ん・・・あ・・・あ・・・あ・・・うう・・・」

「あ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「ん・・・あ・・・」

(じゅっぼじゅっぼじゅっぼ) (早くする)

「あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・」(ちよっと声が大きくなる)

「あっ・・・先輩・・・目・・・閉じてるよね」

「目・・・先輩・・・見てないよね・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・」

「声も・・・声も聞かないでね・・・お願い・・・」

「何も聞かないで・・・何も聞かないで・・・お願い・・・」

「あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・」

(どくどくどくどく・・・どくどく・・・)

(じゅっぼじゅっぼ終了)

「ひっく・・・ひっく・・・」

「ひっく・・・ひっく・・・」

「・・・今度は・・・下ですか・・・」

「・・・」

「はい・・・」「(じゅぼ・・・じゅぼ・・・)」

「うう・・・」「(じゅっぼじゅっぼじゅっぼじゅっぼ) (以下ループ)

「んっ・・・んく・・・あ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

(ピストン運動の断続的な喘ぎ声)

「ん・・・あ・・・あ・・・あ・・・うう・・・あ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「ん・・・あ・・・んく・・・あ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「ん・・・あ・・・あ・・・あ・・・うう・・・あ・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「ん・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・」

「あっ・・・あっ・・・あっ・・・あっ・・・」

(じゅぼじゅぼ終了)

(どくどくどくどく・・・)

「ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」

(フェードアウト)

(フェードイン)

「ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」

「お・・・終わったならどいてください・・・ひっく・・・ひっく・・・」

(じゅぼ・・・) (挿入音)

「・・・また・・・」(じゅぼ・・・じゅぼ・・・)

「うう・・・」(じゅぼじゅぼじゅぼじゅぼじゅぼ) (以下ループ)

「やだぁ・・・うぁ・・・うう・・・ん・・・ん・・・ん・・・」

「んぐ・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・ひっく・・・」

(かち) (何かのスイッチを入れる音)

「やっ!」(いきなり懐中電灯のようなモノで光を目に当てられびっくりする)

「な、なに?・・・まぶしい・・・ライト?・・・ちかちか光って・・・」

「・・・」

「何? ライトを見つめる?」

「・・・これから言うことを繰り返してしゃべれって?」

「・・・なんで・・・」

「・・・」

「はい・・・わかりました・・・しゃべります・・・」

(どうせ何を言っても無駄だから従うほか仕方がないとあきらめての台詞)

「ひっく・・・ひっく・・・」

「・・・」

「えっ?」

「・・・」

「わ・・・わたしは、見知らぬ他人とセックスをしてよろこんでいる雌豚です・・・」

(震え声)

「ひっく・・・ひっく・・・」

「・・・」

「わ・・・わたしは、無理矢理犯されるとすごく感じちゃう淫乱な女です・・・」

(震え声)

「ひっく・・・ひっく・・・」

「・・・」

「わ・・・わたしは、大好きなせん・・・先輩の目の前で犯されてよろこんでる変態です・・・」(震え声)

「ひっく・・・ひっく・・・」

「・・・」

「わ・・・わたしは、自分が犯されるのを人に見せるのが好きな変態です・・・」

(震え声から、ちよつと棒読み気味で)

「ひっく・・・ひっく・・・」

「・・・」

「わたしは、せつくすがすきですきでたまらないへんたいです」(棒読み)

「・・・」

「わたしは、あそこを突かれるたびに、興奮するとってもみだらな変態です」(棒読み)

「・・・」

「わたしは、犯されると自分から腰を振っちゃう変態です」(棒読み)

「・・・」

「わたしは、自分が犯されてる姿を人に見せたくて見せたくて仕方ありません・・・」

(少し感情が高まりながら)

「はあ・・・はあ・・・」

「はあ・・・はあ・・・」

「わたしは、犯されて自分が喘いでる声を大好きな先輩に聞かせるのが好きな変態です・・・」(少し感情が高まりながら)

「はあ・・・はあ・・・」

「はあ・・・はあ・・・」

「わたしは、犯される度に自分から求めてしまうエッチ好きな女の子です」

(少し感情が高まりながら)

「はあ・・・はあ・・・」

「あは・・・はあ・・・」

「わたしは、エッチなことがしたくてしたくてたまりません」

(感情が高まりながら)

「はあ・・・はあ・・・」

「あん・・・あん・・・」

「わたしは、他人に犯されてる姿を大好きな先輩に見せたい変態です」

(感情が高まりながら)

「あん・・・あん・・・」

「あん・・・あん・・・」

「せんっ……ぱいっ……せんっ……ぱいっ……見えっ……ますかっ？」
「……わっ……わたしのっ……おかつ……犯されてるっ……姿っあっあっ」
「せっ……先輩にっ……みらっ……見られてっ……すごっ……すごっ
興奮っ……するのっ……あんっ……あんっ」
「ほらっ……うしっ……後からっ……犯されっ……てるのっ……
すっ……すごくっ……すごくっ……きもっ……気持ちっ……いいよっ」
「あんっあんっあんっあんっあっ！」
（どくどくっ……どくっ……）
（じゅぼじゅぼ）（ばんばん）（終了）
「あっ……あっ……熱いのはいつてくる」
「はぁ……はぁ……ねえ……」
「先輩にもっと見えるように……わたしを犯してえ……」
「……」
「あは……」（じゅぼ……）
「あん……」（じゅぼ……じゅぼ……）
「あん……あん」
（じゅつぼじゅつぼじゅつぼじゅつぼじゅつぼ）（以下ループ）
「あんっあんっあんっあんっ」
「先輩……先輩……ほら……みえますか？」
「あんっ……ここ……ここ……」
「あんっ……ほら、このつながってるとこ……」
「あんっあんっ……エッチな汁がいっぱいあふれてる……」
「あんっいっばいっばい入れられてあふれてる……」
「あんっあんっ……すごくあっついでよ……」
「すごくきもちいいんだよ……ほら……すっごいでしょ……」
「あんっあんっ……みて……もっとよく見て……すっごくきもちいいの……」
「見られてすっごくきもちいいの……見られてるとぞくぞくするの……」
「犯されるどころ見られるともっと興奮するの……あ……あは……」
「あんっ……いい……きもちいい……もっと……もっと……」
「あんっあんっやんっああんっ……んん……あんっあんっ」
「はあはあ」
（以下しばらく喘ぎ続ける）
（喘ぎながらフェードアウト）

6.

絶望

非公開

7.

サークル挨拶音声

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」

「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」

「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して

椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラックスした状態でお聞き下さい」

「この作品ではあなたは先輩役として登場して頂きます」

「これは、あなたが大好きな先輩が、目の前で寝取られてしまう物語です」

「是非先輩になりきってご試聴をお楽しみいただき、そして絶望してください」

「・・・」

「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり、物にぶつかるなどして
怪我などしないようお気をつけ下さい」

「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかず

スピーカーから大音量で本作品を再生した場合

あなたの人生に深刻な問題を発生させる恐れがありますので

くれぐれもご注意ください」

「・・・」

「それでは、本編をお楽しみ下さい」

8.

体験版ダウンロードの案内音声

「この度は体験版をダウンロードいただきありがとうございます」

「体験版をご試聴いただき、気に入っていただきましたら

製品版をご購入いただけるとともうれいす」

「今後ともサークル、ケチャップ味のマヨネーズをよろしく願いたします」